



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩



藤尾学区まちづくり協議会設立準備委員会 歴史文化部会

こんにちはみなさん。いま、藤尾学区では学区内の各種団体が協力して「藤尾学区まちづくり協議会」の設立を準備しています。藤尾の歴史に学び新しい文化を発信していく「歴史文化部会」も出来ました。

毎月1回2年間のシリーズで、市民センターニュースとともにお届けいたします。どうぞご期待下さい。さあ、『藤尾歴史散歩』の連載スタートです。一緒に散歩に出かけましょう。

第1回 旧東海道

藤尾学区には、昔から街道が二つ通っています。一つは東海道、もう一つは小関越えの道です。古代から各地を結ぶ諸道の整備は行われており、大化の改新(645年)の詔にも「駅馬・伝馬を設置する」との条文がみられます。

古代の東海道・東山道は、都の位置によってルートは変化しており、奈良に都の置かれた奈良時代には、瀬田にあった近江国府は東山道のみが通過していましたが、長岡京時代を経て京都に都がおかれた平安時代となって以降は、東海・東山道とも、逢坂山を越えることとなりました。



●旧東海道開橋寺前(現上横木町)

京都の三条を出発し、山科・四宮を経て大津市に入る旧東海道は、追分から大谷へと谷筋をすすんで逢坂山の峠を越えて、関寺から八丁通を直線にすすみ、札の辻の十字路で東の東海道、西の北国の開削が行われ、街道の改革工事が



●東海道五十三次「大津走井茶店」 歌川広重画(現大谷町) 大津市歴史博物館所蔵

今もなお、変わらぬ道筋

行なわれてきてはいますが、今日をもってしても山間の急峻な地形は、国道の他ルートへの付け替えを困難なものにしている、追分町から大谷町を経て上関寺までの道筋は現在も旧街道の道筋のままです。追分町東端から逢坂山の峠までの国道1号線の北側には、京阪電車京津線、その北側に名神高速道路が並行しています。名神高速道路は、国鉄東海道線が大正10年(1921年)に現路線に付け替えられるまでは東海道線の線路敷であり、現在の国道が京阪電車京津線、現在の京阪電車線路が国道でした。

昭和6年(1931年)から8年かけて行なわれた国道改修工事のために電車と国道が現在の位置に付け替えられ、逢坂峠の頂上は勾配緩和のために4メートル切り下げられ、道端も旧に倍する11メートルに拡幅されています。

(文・松井佐彦)

